

## 第8回 図書館建設運営委員会

日 時 平成20年4月19日(土) 15:00～17:00  
場 所 北斎ホール  
出席者 専門部会委員16名 参加者2名  
設計者及び事務所スタッフ 古谷氏、八木氏、杉下氏、他スタッフ3名  
教育委員会事務局 市川教育長、富岡参事、山岸GL、花井館長、田中、松谷  
小林  
職員プロジェクトチーム 5名

### 議事録

1. 開 会
2. あいさつ

(委員長) 今日は土曜日のお忙しい時期の日中にも関わらずお集まりいただきありがとうございます。普段は夜の時間帯で委員会を行っていますが、新しい方もみえますので、一緒に議論をしていきたいと思えます。よろしくお願ひします。

これから第8回の建設運営委員会を始めます。まず事務局から前回の経過報告をお願いします。

3. 前回の経過報告 (事務局 省略)

#### ①新体制の紹介

(職員新体制 省略)

#### ②建設運営委員会新体制

(委員長) 建設運営委員会も体制を改めまして、今まで建設、運営、電算化という3つに分けていましたが、「建設」と「運営」を一体化し『建設運営部会』とし、電算化部会は継続という形で、2部会に変えました。また、今回のような全体会議の中で基本的に部会を開き、必要に応じて部会単独の会議もおこなうということになりました。

建設運営部会の部会長は小林さん、副部会長は、石崎さん、小山さん、池田さん。電算化部会の部会長は吉田さん、副部会長は、小山さんです。よろしくお願ひします。

4. 会議事項

(委員長) 続きまして会議事項に入ります。古谷先生の説明の前に、設計事務所の八木さんから進捗状況と、当面の日程など説明いただきます。

(八 木) 皆さんこんにちは。行政も委員会も少し体制が変わったということですが、私どもも、実施設計真っ最中ですので、事務所内では人数を増員してこの仕事に取りかかっています。普段は東京で進めて、打ち合わせのためにここに参りますが、今日は東京の事務所のスタッフである、志村、吉川、永沢も連れて参りました。

2月3月で、基本設計の了解を得ましたので、それに基づいて実施設計を決めています。構造設計、設備設計という協力事務所の人たちも東京で打ち合わせしておりますが、彼ら共にまず皆さんのご要望と予算、工期を全部クリアするようなテクニカルな図面を画いています。

今、積算に入っていない状態ですので、積算できる図面を5月半ばを目指して作成しています。5月末から3週間か1ヶ月ぐらいかかりそうな部分を2週間で見積もりを依頼しています。

ですから、5月末には全部の見積もりが上がります。そこで皆さんが驚かないように言うておきますが、最初に出てくる数字は最初の予算から2割から3割オーバーで出てきます。今回も、特に鉄骨が値上がりしているため、少し予算が厳しいというところが実状です。それを6月前半にかけ10%圧縮する。何をどうするかを我々でおこないまして、場合により皆さんと約束してきたことを、諦めることがあります。そういうように6月の前半に協議をして、6月末には業者の選定に入る。それが現況です。

(委員長) どうもありがとうございます。それを踏まえてこれから会議事項ということで、設計者から説明、その後は質疑応答に入りたいと思います。

## (1) 設計者からの説明

(古 谷) 皆さんこんにちは。前回3月以来、今申し上げたとおり実施設計の内容の技術的な部分を一つ一つ、詰めているところです。

今日は4月に入り第1回ということ、それから今回初めての皆さんも来られるかもしれないということ。また役所の中も少し変わられています。

そういうことで、今まで続けて出てくださった方には繰り返しになる部分もありますが、今までの経緯を振り返りながらご説明したいと思います。

最初プロポーザルで当選し、それを受けて以降、原案はこの案だったのですが、それに対し北斎ホールと何とかつなげないだろうかというお尋ねがあり、それが最初の問題となりました。

そこで単純につながらば、一部分に渡り廊下を設け、併せて2階に上がれ

るエレベーターで北斎ホールの上階に直接つなぐという最小限の道が一つあります。

さらに、北斎ホールと新図書館の間の部分が坂道になるのですが、むしろこの部分を入りにし、両方から入れるようにする案もある。

また北斎ホールにある小部屋を図書館の一部として使いたいというご要望もありましたが、この図書館の中に部屋を確保していくことで、さまざまな使い方に対応できるようにする案。

3案を比較検討し、最終的には繋ぐにはそれなりの予算がかかり、2階に上がるためにエレベーターが必要ということで、その部分の費用が掛かる位ならば、本館の充実に使ってほしいという判断で、最終的には将来的に繋ぐ可能性を残しながら、仕切って使える部屋を準備するその方向性になりました。

それを受けて、配置図が決まりました。

また私が最初に提案した時のいくつかの骨子は、図書館の周りを緑で囲み小布施の豊かな緑を駅前から中心部につなげていく、駅の近くにある皆さんの憩いの場所として提案をいたしました。

ちょうど今日、満開になっている桜と、既存の樹木を積極的に残し、それ以外にも樹木を補って、そして緑の中にある図書館を実現していきたい。

その際に、設計する上でヒマラヤ杉一本が非常に大きな障害となっていました。ヒマラヤ杉に関しては移植し、周りに他の木を補植する考えでおります。

また現在、奥の裏方の閉架書庫と、多目的室をどのように配置するかに関して、いくつかの検討がなされましたが最終的には後ほどお目にかける案にまとまりました。

それと平行して、別の問題として今までの小布施の町にある景観の条例のこともあり、比較的勾配のある切妻屋根の造形が一般的なのですが、私の提案は大きな図書館という広がりのあるものに大きな切妻屋根をかけるのは、景観にそぐわない、むしろこの場所にふさわしい新たなる空間が必要と考えました。

実際にはこの小布施の町全体が、雁田山があり龍雲寺の緑がありというようなものの中出来上がっている。その中で私は模型にもあるような、緩やかに起伏のある屋根を提案しております。

その屋根の提案が、これで良いだろうか・という議論が次に起こり、そのときにご説明した内容は、大きな施設の屋根に強引に切妻の屋根を乗せると、普通の民家と違う大きなものならざるを得ない。その大きな切妻屋根で自然に調和するとは言いにくいので、私は小布施の町の中にある極めて緩やかな起伏のある山の稜線や緑のラインに対応する屋根をここに創りたいと申し上げました。

材質としては、後ほどご説明いたしますがいぶし銀の瓦と同じような発色をする金属板で葺きたいと考えています。さまざまな材料があり、お金に絡むも

のなので最高級のチタンから、一番リーズナブルな価格なガルバニウム鋼板というものになります。当然それは耐久性などに関係し、最初は高価でも、長持ちする材料や、何十年かに一度葺き変えなければいけない材料もあります。

その辺はコストのバランスの中で検討になります。幸い最終的には私がプロポーザルの時に最初にお示した案の、三角の図書館を覆う緩やかな勾配屋根をこの会で認めていただき、現在それで設計を進めております。

一方プランニングで大きな部分は変わらないのですが、検討した結果、細かい部分、例えば周りの建物からどのぐらい離して建てるかという検討に入りました。北斎ホールの方からアプローチしてくる時に、スロープでどれぐらいの距離をとれば急にならないですむかという距離。手前の緑との距離や、小学校のグラウンドに対して今は土手が、続いているのですけれど、少し角度をグラウンドの方に広げて手前の部分を広げさせてもらいたいということをお話してきました。

私が最初に提案した一番大きな特徴の一つは、満開になっている桜と、北斎ホールの下をくぐり抜けて入る関係を、なんとかスウッと風も光も通り抜けられるものにしたい。そこで7.5mという幅を確保して、南北を、人も景色も光も風も通り抜けられるような造りにしたいと考えています。

また、北斎ホールと新しい図書館のレベルをどのようにするかという議論が起きました。グラウンドの高さに合わせるという意見も多くありました、また選択肢としては駐車場や桜の木の低いほうに合わせる、北斎ホールの一階の床に合わせる、そして、北斎ホールはロビーと器具庫の高さが違うため、どちらの高さにあわせるかということがありました。結論としては、先ほど「繋ぐ」渡り廊下の話もあり、今回は繋がなくても将来的に北斎ホールへ繋ぐ可能性を残しておくために最も合理的に、北斎ホールの器具庫の裏側の高さに図書館のレベルをおくことが良いと結論にしました。小学校のグラウンドの方からは少し下って入り、駅から来たときには少し上って入る関係になります。

これが通り抜けを造り空間を抜かせようというイメージです。このように今は建物がくっついている所を引き剥がし、平屋ですから比較的低い屋根で、小学校のグラウンドの方やプール側の方の通り抜けも確保しております。

現在は狭いところを通って階段を降りていくようになっていますが、比較的ゆったりと南北を繋げてあげて、建物の両側を人が自由に通り抜ける空間をイメージとして持っています。

更にこれは駅前にも繋がっていき、遠い将来、駅前通に並んでいる家々が何かの機会を得て建て替える時に、その奥にある森とのつながりを考えていただけるように。或いはここから緑の中を通り抜けていく道の出発点になれるようにという考えでこの裏側をまとめておきたいと思っています。

位置関係は北側の住宅との日照の影響も考えて、約 7.5m と広げます。

平面図はこの通りですが、仕上げの話として屋根には一番耐久性があって、信頼感があるのはチタンを使いたい。私が 18 年ぐらい前に広島に造った住宅はチタンの屋根ですけれども、今でも当時の色をしています。そういう意味でチタンを使えば半永久的なのですが、これが工事費の中にもうまく取り込めるか、悪戦苦闘しているところです。

仕上げだけでなく基礎工事の浮いた分をどう分配するかというような、全体で調整している段階です。チタンは浅草の浅草寺の門の改修の時に使われている素材で、瓦のように見えますがチタンです。チタンの発色をコントロールすることで燻し瓦のような色を出すことができます。非常に軽量で耐久力があり、最近では文化財や神社仏閣で多用されている素材であります。

もう一つ岩手県田野畑村の私が実施設計を担当した、20 年近く前に建てた田野畑村の民族資料館の屋根はガリバニウム鋼板です。チタンに比べれば若干、鉄板ですから、腐らないとは言えないものですが、屋根そのものに関しては現在も全く腐食していません。ガリバニウム鋼板で葺いた曲線的な屋根は今回のイメージに若干近いと思います。

外壁の仕上げは、2 種類考えていて一つには漆喰的な素材です。小布施の建物にもある漆喰的な素材、塗り壁的な漆喰仕上げのものを使いたい。尤も、本漆喰ではなく、現代の建築に使うための漆喰的な可換材料を今は考えています。昔の漆喰よりは耐久性があり施工が容易でいいものです。同じものは高知県のアンパンマンミュージアムの別館でも使っています。或いは部分的には、木の羽目板のも小布施の町のモチーフの中にありますので、どこかにあしらっていきたいと考えています。

床の仕上げは基本的に、木質系を考えています。アンパンマンミュージアムに使った材料ですが、木レンガを敷きこんだ床です。土足で入った時に、周りが舗装されている町の中から入った時と、周りに地面が残っていたり雪が積もっていたり時に入るのでは、やはりスリップ感が違いますので一つの方法として思っています。素材そのものは非常に耐久性が高くアンパンマンミュージアムも杉のフローリングを入れています。家庭用のフローリングよりは荒っぽく、土足で踏んでもそれほど違和感のない木の床というものもありますので、そういう素材も候補に上がり、全体のコストの中で比較検討しているところです。

天井に関しては、柔らかい木質を感じさせるものを使いたいと思っています。ただ、曲面の天井になりますので、どのようにできるか実施設計の中で考えていかなければならない点であります。全部木の内装を考えています。

今までの経過で、ここから前回検討していただいた内容のおさらいと、今日の提案になります。

これも前回までに検討していただいたことですが、中をどういうゾーンの構成にするか。

エントランスは北斎ホールと役場の間を抜けていく側が良いという意見が、長い議論の中で多かったので方針が固まりましたが、真ん中に書架の部分がありそれ以外に大きく3つの窓辺のゾーンができます。

パターン①として、最初にご提案していたのが比較的玄関から離れた場所に奥のサービスカウンターを、手前にコンシェルジュカウンターを置き、玄関から近いゾーンを、「動」のエリアにしました。一番奥に先ほどの多目的ルームを造り、大勢の方が出入する動線になる。これに対して本棚の東側の奥には少し落ち着けるエリアを造ります。当初はこの東側に中高生の読書エリアと南側に一般的な読書エリアを提案していました。違いは、中高生の読書エリアには比較的集団で共同作業ができるような大きなテーブル、一般的な読書エリアは個人的になり、ひとりひとりが名々で読めるような案です。

パターン②としては玄関付近に活気があるということに関しては変わりなく、元の案でここにあった児童コーナーを、南東の角に移動した案です。

この両者を比較検討しながら皆さんで講評していただいた結果、最終的には、児童コーナーはこの桜の方に残し、にぎわいのあるエリアに。そして南側は中高生と限らず閲覧席で大人でも何人かグループで来て、何かやるときには大机を使う。東側は個人で使う机を並べて、比較的静かに使う。共に閲覧室ですが、2種類の机の違いで、使い分けをする案に基本的にはまとめたというのが本日の提案です。

そして中身をみますと、グループで来て何か調べ物をしたり、もちろん個人でも使えますが、そういうコーナーを南側に。その南側は本棚の高さを少し低めに抑えて、視線も抜ける開放感のある形にいたします。

一方東側の少し落ち着きのある個人机。読書灯が全部中央に付けてあります。机の中央にタスクライトが点くようになって、ちょうど斜向かいのように2人が座って使えるため、お互いに邪魔をしあわない閲覧机を作り、東側に配置する。東側には目の高さまであるような一般的な本棚があり、その向こう側に配置されることから、人通りの多いところから見ても、視線があまり入り込まず落ち着いて本が読めるコーナーになる。入口からは死角になりますので、奥のサービスカウンターから緩やかに目配りができる状態になっています。

また図面の枠の中は前回から今回までの間に皆様からいただいたご要望に則って案をまとめてみたものです。今日、これから先は議論したいところもありますが順々にご覧下さい。

エントランスの問題については、エントランスが底下で靴の泥を落とすことができるようにしてくださいということでした。これは床仕上げやマットの工

夫、場合によっては泥靴を洗える機能をこの近くの外構で造っておくことでこれは対応できるのではないか。それから先ほどもでしたが、自動ドアを災害の時にも開閉できるようにという要望ですが、通常の自動ドアは電気がない時には手で押し開けることができます。普通の引き戸より多少重めになりますが、普通自動ドアは、電源が切れていても鍵さえ外してあれば手で開けられる、避難したりすることができるのが設計の方針です。けれども、避難時には別の扉から開けて逃げられるようにという工夫をしなくてははいけない。

或いは普段からもう少し軽い引き戸にして、自動ドアにしないということも含めて、ここは選択肢がいろいろあると思うのです。

今、設計者として想像している範囲では、自動ドアにしておいて、少なくともどちらかは自動ドアにして、開けっ放しにならない状態にしておくのが良いと思っています。災害時、何かあったときには手で開けることができますので、それで十分対応できると思います。これも、ご意見をいただきたい。

それからコンシェルジュカウンターのところに出てきた、皆さんのご意見は、先程の経緯では端折りましたが、長い議論の末サービスカウンターとコンシェルジュカウンターが一对のサービス業務を行うことになりました。入り口の近くにあるカウンターへのご要望は、管理用のパソコンが2台、それから来館者が検索するためのパソコンが2台、それからホームページを閲覧するための専用のパソコンが1台、合計5台ここにあったら良いのではないかと。

そして給水給湯設備、シンク(流し)、IHクッキングヒーターを設置したらどうか。カウンターそのものは、位置を再編する、或いはコンシェルジュカウンターを充実するというようなことも睨んで改変可能にしておいてほしいというご意見が出ております。

その結果、本日のところは、置こうと思えばパソコンの台数そのものは置けないわけではなく、このカウンターに5台は多いので視聴覚のコーナーの方に、例えば検索用のパソコンを移すとか、そういうことは少し実際の大きさを見ながら検討していかなくてはならないと思っています。

給水給湯設備は、お茶ぐらい沸かせる設備をここに作っておこうと思っています、元々私の提案でもあります。普通の人あまりいたずらできないような、カウンターに仕込む形で作ろうと思います。こちらは給排水が接続していますので、このカウンターについて今日はここに置くけど、明日は移動するというほど簡単に移せるものではありません。将来これをもう少し別の位置に移すという時には工事を伴いますので、勝手に手では動かさないけれども、取り外して別の場所に繋ぎ換えることができる移動可能な形式にしておこうと思います。

実際のイメージとして、一応5台置いてみましたが、広さとしては置けないわけではないが、パソコンだけでなくそれを利用する人が、ここで留まります

ので、この入り口のすぐ直近のところのカウンターに多くの人が留まり何か見たり作業したりするのはふさわしい事なのかちょっとお考えいただきたいと思っています。置こうと思えば置けます。

奥のサービスカウンターには、こちらにも管理用2台、ホームページ用1台、検索用1台、計4台の要望です、今は。これもスペースとしては置けます。そしてこちらにも移動可能ですが、比較的大きなカウンターで、給排水がついている訳ではないのですが電気配線はついています。こちらを朝夕に動かすとは思いませんが、こちらの場合には2台のキャスター付きの作業台をつけ、或いは持ち出すこともできる可動部分があるカウンターと考えたらどうでしょうかと提案します。サービスカウンターも一応固定しますが、もちろん取り外して別の位置に付け替えることができます。そして脇の方の机は自由に場所を変えられるように今なんとなく置いてあります。スペースとしては4台置くことはできますが、本当に必要かどうかは十分ご検討いただきたいと思います。

また授乳コーナーを、先々月からご要求があり作りました。カーテンで簡易に仕切る授乳コーナーで、この周辺に給水給湯設備とシンクを置き簡単に哺乳瓶を洗うことができるようなものを考えています。というのは、サービスカウンターの近くという説もありますが、僕のイメージしているサービスカウンターは本を整理されることの方に重きを置いているものですから、水をこの近くということとは考えず、水に濡れる可能性があるものはこの授乳コーナー脇の壁側に設置し、必要に応じてはお茶を沸かすこともでき、哺乳瓶を洗ったりすることもできるものをここに持ってきたらどうかと思っています。

児童コーナーですが、本棚は動かせるようにというご指摘がありました。しかし、これも簡単には動かせません。地震時の転倒の危険もありますから、床に仮に固定する形式で、子どもがぶつかっても倒れないように考えています。ただ、固定を外せば将来的には別の場所に持っていくこともできますし、これこの形は組み合わせ方は自由になるように考えています。将来、これを極端な話、東側に移そうと思ったら移せる脱着が可能なものになると思います。そうするつもりで今はいます。この模型は、ひと繋がりに作っていますが、分割されていますし移動可能です。児童書側から見たとき、ひと繋がりになっている棚がパーテーションになり、視聴覚ブースの方と仕切りになっている。満開の桜の木の根元のところに児童コーナーを作りますが、そこは靴脱いで上がれるような場所にします。もちろん昼間の、お子さんの来やすい時間に児童コーナーとして使うのは当たり前なのですが、例えばある行事やイベントで座り込んで何かやりましょうという場合も、児童に限らず大人の方も使える。

繰り返し申しましたが、児童コーナーや大人のコーナーと名前を付けるとそれ以外に使えないように感じますけれども、靴を脱ぐところ、本棚の向こうで

静かなところ、少し声が出てもいいところと思って使う、そうすれば児童でなくても、大人でも高齢者でも、いろんな人が適材適所にそれぞれの目的に応じた所を使うのが良いと思います。

視聴コーナーには、たっぷり背もたれのある椅子を考えています。模型まだ間に合っていないですが、背もたれの中に入り込めるような感じでそれぞれの視聴覚を見たり聞いたりすることができる場所を設けようとしています。

検索用のパソコンもこちらのエリアにもほしいというご要望でしたので、それは書架ゾーンの一番対角に、それなりに検索が可能なところが出てまいりますので、書籍の検索ができるものを置くのが良いのかなと思います。

事務室ですが、事務的なことなので必要なものをお買い揃えいただければ良いと思いますが、事務室の中に管理用のパソコン2台と職員用の2台を設置したいというお話です。

奥の休憩室の部分にはIHクッキングヒーター、給水給湯設備、シンクをつけることになっています。

多目的室は、いろんな行事をするときに手が洗えたり水が使えるようになっていて便利ということがありますが、剥き出しに付いているのはどうかなあと僕は思います。やはり図書館の中は本を読む場所ですから、水道があるのはどうかなあとお思いまして、多目的室の奥のスペースに収納できますので、収納の扉ひとつ開けるとその中に流しがあるという状態を今考えています。

その他、多目的室内にプロジェクターで移動可能なものを1つ、スクリーンは固定式を1つ、移動式1つというご要望があり技術的には全く問題なく設置することができます。

館内のスケッチはこんな感じになります。エントランス側から見て、コンシェルジュカウンターがあり、机はないけど腰をおろして読めるような場所があり、右手に本棚、奥に視聴覚のブースがあり、その向こう側が児童書のコーナーになっている。そして更に奥にサービスカウンターがあり、児童コーナーとは視線的には繋がるようになっている。雑誌コーナーの前には半分のソファのようなもので、互い違いに腰をおろせば、仲間でも来てもそれなりに座れ、全く仲間じゃなくても背中合わせであんまりお互いを邪魔しないで読める座る場所がある。また本棚の棧部の所にも、腰をおろして取り出した本を読めるようなコーナーを作りたい。

また、丸いものはお手洗いで、お手洗いの方から桜の庭の方を見たものです。

以上が今までの経緯です。

もし時間があるようでしたらやってきた、今まで私達が手がけてきた建物、それからワークショップの在り方みたいなものを盛り込んだスライドがもうシリーズ今日は用意してありますが、一旦これで…。

(委員長) どうも先生ありがとうございました。設計者の説明ということご説明いただいたのですが、後半用意していただいているものはその他のワークショップに関連するものだと思います。

先に今説明いただいたものについてのご質問がありましたらお受けしたいと思いますが、よろしくをお願いします。

(委員長) 先生、内装の壁材については何か…。

(古 谷) 説明いたしませんでしたが、壁材は窓のところと関連しておりまして、3点の窓になるところは構造的に必要な柱があり、当然窓として必要なガラス窓、風をいれるために開ける扉の部分があります。そういったものを何種類か混ぜ合いながら壁面を構成しようというのが今の考え方ですが、ガラス戸のところ以外の内装の壁に関しては殆ど白く、あまり目障りにならないものでいこうと思います。

床と天井に少し木を感じるものを使い本体そのものの壁は塗装し比較的白い壁にしたい。本棚の本体は普通スチールでできているのですけれど、本棚のパネルを木にしようと思っています。そうすると内装の背景の壁となる部分は白い方が手前にある木を使った本棚が映えますし、全部が木ばかりになると打ち消し合ってしまうというか、山小屋みたいになる可能性もある。今の僕の考え方としては壁になるところは比較的白いプレーンな壁。そして床と天井に少し木を感じるものを入れて、あと、本棚にというふうに考えます。

(委員長) その他にありますか？

建物の東西にある階段にはスロープはつけられないのですか？

(古 谷) 外構ですか？付けようと思えば付けられます。西側の北斎ホール側はあるところまでは基本的に造ろうと思っています。最後桜の木のところまで全部スロープできるかどうか、最後にステップが何段かは微妙なところですが、全部スロープでという事になればできます。どちらが良いかということです。今話をしているのは、急なスロープではないのですが、車椅子の方が来られたときに車を止める場所でもあるから、むしろ平らにして後は階段の方が良いというご意見もあります。

(八 木) 以前全体のワークショップで車が止められるかという話があったのですよね。

以前北斎ホールとの間を、全部スロープにして特に身障者の方だけでも通り抜けられないかというお話がありましたが、スロープの勾配が1/8になり、これでは危ないということで、まず通り抜けるスロープはやめましょうということは、皆さん決めたと思います。

そうすると、身障者用の車を2台止められることになるのですが、その部

分をほぼ平らにして最後 1 m ぐらいの落差を階段で解消するのがいいかなあと我々は思っておりますが、階段の数段でも減らしたいというのであれば、少し傾斜して北側に降りていき最後 3 段か 4 段ぐらいの階段にすることもできます。

(委員長) この点何かご意見ありますか？

(委員) 全部スロープにするという利点というか、スロープにしても 1/8 のきつい勾配になるのであればメリットがよくわからない。逆に私だったら、天気の良い日は外に行き、階段に座って昼飯をとというのが魅力に感じますのでそういう構造をできればなあと感じます。

全部スロープにするメリットの理由はあるのですか。

(委員長) 階段になってはいますが、階段の一部、両サイドのどちらかにスロープのようなものを作ることはできるのですか。その予定はあるのですかと聞いたのです。

(古 谷) それは自転車か何か通るためのものですか？

(委員長) 自転車とか、車椅子とかが通ることが可能かということです。駅からの連絡を考えているとおっしゃるのならば。

(古 谷) 自転車のためのスロープをつけるという事は問題ない。ただそれが階段に平行しているとなると、それなりの勾配がありますから車椅子を押して押せないことはないけれど、押すには少し急なスロープになります。

先ほどの僕の答えになりますが、それをやろうとすると全体をならしたスロープにしないとならなくて、1/8 というのは押して押せない坂ではないです。雪のときは、ちょっと…。

(委員) やはり雪を考えた時は、車椅子や自転車で転ぶ危険も考えると、1/8 はかなり急です。半分ぐらいだとまだ良いのですが。

(八 木) スロープのことだけを考えるといろいろできるのですが、同じスペースの中に車椅子用の駐車場も並列しなくてはいけないので、そうすると難しいです。なので階段に沿わせた自転車を引っ張るためのスロープぐらいが建設的ではないかと思います。

(委員) ここまでに関して、具体的に計画を委員会では受けてないのですよね。植栽はどうするか、樹木はどうするかとか、内・外構、段差をどうするか、そういうものを含めた上でね、どこかでまとめて、整理して大体で結構なので、そういう資料を紙でもらいたい。雪の影響も汲まなきゃ困るし、雪だとか寒さとか普遍的なものを今ここで話してもね…。

(古 谷) いや、今ここで伺っておかないと盛り込みにくいから、伺えるなら伺っておきたいですね。

(委員) やはり木の観点も、手入れのいる木といらぬ木で相当違いますよ。先生の描いた場合。

- (古 谷) 大きさがですか？
- (委 員) 平面図の中の位置と大きさと、ボリュームと、図面のこの部分のボリュームは相当違いますよね。
- (古 谷) そんなに違わないようにしているのですけれども…。
- (委 員) バランスや力量の問題もあるだろうし、龍雲寺への道も歪んでいるし、それも考えてほしい。
- また屋根からの雪も落ちてきたらどうしたらいいのか。
- (古 谷) 屋根の雪は基本的には落とさない方向で考えているのですが、庇の落下点のところには、万が一何か落ちて、支障のないような外構上の配慮をしています。
- (委 員) そういうものを総合的に考えた上でね、今変更しなければ最初の方から狂うわけですから、お考えになったらいかがですか？いいかげんではないですか？木に係わることも、相当違うと思うのですよね。
- また西側に公民館があるので不凍面の問題もあるのですが。
- (古 谷) あの模型は確かに木の本数違うかもしれない。これはちょっと古い模型なので…。これはかつての経緯を振り返った時に使いましたので、これはちょっと違いますが、今はこの計画で行っています。樹種の選定は今専門家としているところですが、現在はこの配置具合で考えています。
- (委 員) 冬は日が当たらないです、はっきり言って。そういうこともあるのもっと研究されたいかがですか。
- 僕らは、ここに住んでいるから考えるけど、一番は子ども達にも関わることだし、障害者、高齢者のことを配慮して。もっと研究いただいた上でまとめてお話いただきたいと思います。
- (古 谷) でも、ご心配な点があるとしたら今教えていただけませんか？こういうことが心配なのだけれどという…。我々も研究しているつもりだけれども、でも、それでもなおご心配だとお考えになっていることがあれば教えていただけませんか。
- (委 員) 雪は確実に落ちると思いますよ。
- そして、日影に落ちた雪は相当時間たたなければ融けないですよ。今は、いくら言ってもわからないと思いますけれども、多分積もるだろうし。階段が良いのかどうかという問題もあるし、階段を利用すると更に除雪、雪片付けも、かなり必要になるとは思います。そういうものを…。
- (古 谷) 今私が思うには、北斎ホールとの間の部分の動線は補助ですよ。メインの入口をこちらにしましたので、ここをどうしても通り抜けられるようにしなくてはならないというのは、雪の積もっている期間だけで、365日通すようにするかどうかはよくお考えいただいた方が良くと思います。ただ、雪がない時には

充分通り抜ける事が出来ます。雪が積もったままにしておいても支障がある動線ではないですよ。今考えているのは、屋根全体に積もった雪は基本的には落とさないという方向で考えています。

(委員) ぎりぎりまで、雪を落とさないという事ですね？自然に雪が落ちてくる？

(古谷) 雪を落とさないということです。でも、落ちてくる可能性はあります。ただ、この時に、落下した時に危険がないように、この辺りに関してはニプロ線でニプロヒーターを入れると、そういう物が必要になってくると思うのですが、それは全部に入れる必要はない。

と言うのは、雪の降っている時に、この駐車場も含めてですが、雪が降っても支障がない外構計画にしようと考えています。雪が落ちるかも知れませんが、溜まっても構わないと言う建物の外壁側の諸事も含めて、雪が降っても支障がないように考えています。一方、どんなに降っても雪が絶対溜まらないようにしているのはこの入り口の所です。

(委員) ニプロヒーター入れるお話しがありましたけれど、入れる事によって、要するに反対側と重なりますよね。雪が必ず溜まる場所もある訳でしょ？

(古谷) あります。

(委員) そういう事も含めて経済的に検討などされた上で、決定してもらいたい。まだ、遅くないのでね。実際、警報のようなものがある方がいいのかも含めてね。

あと僕は個人的に内側のそういう部分、デッドスペースがもっとあると思う。

(古谷) デッドスペース？どういう意味で？

(委員) これは個人的な意見です。

(古谷) いいですか？こちら側の面に…。

(委員) 問題とかあるのですか？

(古谷) あります。これは外構に関してご説明いたしますが、正直ある所から先は技術的にやらなきゃいけない事が沢山ありまして。

(委員) 普通もそうですね。周りはどうするのが良いかとか、開館後はどうするかとかね。

(古谷) 多分、まだご要望が聞きたいのだけど、見てからどうのと言うのではなくて、こうしてみてくださいませんか？と言って頂けた方が、やりやすいのですけどね。

(委員長) 出来れば、建設運営部会を出して貰っても良いし、そうじゃなければ委員の方に言って頂いてもいいし。

(古谷) 一応現在の案は、細かいところは説明していませんが、大きな方向性はあるので、スロープの方が除雪しやすいとか、いろいろな一長一短ありますが、この場合は西側の階段はどこが相応しいかなとか、ご意見ご要望があれば伺いたいと思います。

(委員) 階段は何段くらいあるのですか？

- (古 谷) 15cm くらいの階段にしたなら、7 段くらいです。
- (委 員) 私は子どもの為を思うとね、3 段くらいから小さい子が飛び降りて怪我したから、階段にしてはならないと思うのですね。高学年の子が飛び降りるなら大丈夫だと思いますが、危険性を考えた場合、階段にした方がいいと思います。
- (古 谷) つまり、この 1m くらいの差を基本的には階段で、降りると言う事ですね？  
今の案がそういう案です。広い、こちら側が緩やかな階段で、こちらはさらに広い腰を下ろせる階段になっている。
- (委員長) それでは、今、16 時 20 分ですが今日は、17 時までを予定しています。これから、古谷先生に後半部分のスライドをご説明頂いて、それから大体 15 分から 20 分、ワークショップをおこないたいと思っています。そのテーマがここに『町の中の図書館』と書いてあるのですが、一部、みんなの前で言えないような、そういう質問事項あれば、ここで出して頂いて発表者に発表して頂くと言う事も出来ますので、1 回ここで (1) については、切り上げたいと思います。

## (2) 質疑応答

- (委 員) 時間がないところ、申し訳ありません。今、具体的なお提案を頂いて、すごく素晴らしい美しい図書館になりそうだなと楽しみなのですが、実際に先生が描かれたコンテで館内の様子を拝見しましたがけれども、子どもの事にも関わっているものですから児童のコーナーですが死角の、見えない部分がとても多いことが気になります。

また仕切りが一つきりで綺麗な S 字型、その裏側が視聴覚コーナーの内側で子どもたちが本に限らずくつろいだりという事になると、視聴覚していらっしゃる方は静かな方が良くて、子どもたちはちょっと声上がるというのとも心配ですし、非常に姿も見えにくい。他の場所もそうですけれども、児童コーナーは死角が多い感じがしましたので、S 字のカーブをもうちょっと工夫するとか、児童コーナーはもう少し入り口に近い方が良いなということ。

あと、給湯コーナーは、私もあった方がいいと思っておりましたが、その給湯をコンシェルジュのサービスする給湯コーナーではなくて、公民館で使っている配膳室や湯沸し室のような形に是非して頂きたい。

個人の意見としましては、自分たちが使える図書館にしたいという事がありますので、是非、給湯コーナーのような形で皆が自由に使える、カップなり何なりが置けるような、誰でも使えるような場所にするという事を要望としてあります。

あと、全然ご説明してないのですが、壁面をもう少し使って蔵書を増やすとかしていただきたい。

また、この 1 万 2 千人の町で、交流がメインということですので、テーブルの

多さは分かるのですが、個人閲覧のテーブルとグループで使うテーブルの数も、多いように感じました。

この辺の所も、もう少し壁面書架にしてほしいというような、私個人の感想です。よろしくお願いします。

(古 谷) ありがとうございます。模型をもう少し見て頂くと分かりやすいかと思うのですが、壁面そのものの書架はないのですが、窓際の二辺は腰の所は全部本棚です。

そして、背の高い本棚は、中央の三角でまとめてあり、低い本棚は外回りにあります。それから、窓に近い方の本棚も低い本棚で、上は抜けるような本棚です。本棚そのものは、本が入ってしまえば塞がりますが、閉鎖のない形の向こうが抜けて見えるような本棚で出来るだけ構成しようと考えています。

それから、児童コーナーですが奥にサービスカウンターがあります。そして授乳コーナーもあり、先ほどの湯沸しをもう少し給湯室くらいの装備にするかは、よくご検討いただければと思うのですが、哺乳瓶を洗ったり、お湯沸かしたりするコーナーがここにあります。

奥にサービスカウンターがあり、視聴覚カウンターが手前に、そしてエントランス近くにコンシェルジュカウンターがあるのですが、ここから見ると確かにガラスはありますし、児童コーナーは比較的丸見えなのです。どちらからも透明に見えますので。後は出入り口をもう少し広げるとか、このS字の距離をもう少し広げるとか、微調整はあるかと思いますが、今思っているよりは、皆がよく見える場所で、外に雪もなく人が通っている時期は尚更よく見えるようになっているはずです。

(委 員) あの、よろしいですか？感覚としまして、スタッフが見守るといふそういう場所ではなくて、周り中で子どもたちが、くつろいだり、遊んだりしているのが見える児童コーナーというイメージがあるのですね。その方が交流と言った場合に、先程仰ってましたけども、中高生は中高生のコーナーにしない方がよいとご提案いただいたので、児童コーナーは児童だけのものにしないという意味で、高齢者の方もそれを眺めるとか、ちょっとざわついている声を聞くとか、そういう事がもう少し開放されていた方が良かなという事です。ですから、安全面で死角があるという事と共に、入ってきた人が子どもたちが楽しそうに本読んで遊んでいるなという姿が、誰からも見えるようなコーナーが良いなと感じます。子ども達にとってもその方が、おそらく交流というのがありますし、いろんな人が出会ったりというのはともかく、児童も一緒です。その書架の棚の高さを低くするなりはできませんか？

(古 谷) 児童コーナーの棚はあまり背の高いものではなく、立っていると中がある程度覗ける高さになります。基本的に、机の高さです。

それから、視聴覚コーナーではヘッドフォンをしているので近くで多少声が出

でも大丈夫なのです。視聴覚を利用される皆さんは本当に見たい時には、ヘッドフォンをすれば良いので大丈夫。それから、子どもの声はこの辺に広がっていて、立って歩く人たち子どもたちが居るなという気配は感じる。

(委員) そうしましたら、是非、S字型の棚を所々切るような形にして頂くとか。どうしても子どもの立場からすると、ちょっと閉じた感じがしますので、もっと出入りが自由で。まあ、靴を脱ぐっていうのは、良いのですが、本当なら…。

(古谷) あれでも閉じた感じですか。

(委員) やっぱ子どものコーナーであれだけ一続きの棚で区切られてしまいますと、出入りが自由な感じがしないという印象を受けますので、閉じた感じ・感覚があります。

子どもは思いもよらない使い方をしますので、靴を脱ぐということに関しまして、それだけ広いコーナーを全部靴を脱ぐのではなく、土足のままでも子どもたちが入って、一角は靴を脱ぐコーナーがあるだけで良いかなという感覚です。入りやすく、誰からも見えるという、それは児童コーナーに限らず、他のコーナーもそういうのが良いなと思いますし、特にこの児童コーナーに関しては。

(委員) ここに出ている図面はパターン1で入り口が、子どもが入るのか分からないような、入り口になっていますが、パターン2の方は逆にちゃんとなっていて、コンシェルジュのような感じに。

(古谷) こちらですか？

(委員) ええ、今の子どものコーナー、一つのこのカーブで窓の方に向かってのと、棚の方に向かってのと2通りあるのですね。

パターン1、パターン2って方向が違うので、2の方見ますと広がっているのですよ。そうしている方からみて、こういうような死角をもう少しちゃんとする機会がまだあると思うので、そういうのもどうかなと思いますね。

(委員) どうしても、ご提案を頂くとこれで進んでしまうのかと思ったものですから、すみません。これからまだ余地があるということで、よろしいのですか？

(古谷) ただ今おっしゃったのは、確かにS字になった段階のものが、かつてありましたが、その長さが足りず、そこに入る児童書の数がもう少し欲しいという事で、今は長くなってしまっています。元はもう少し短いものがありました。そういう意味では出入りしやすそうな提案だったものが。

(委員) それがパターン1ですよ？

(古谷) 前ものは短いと思いますね。

(委員) 短いと思いますがパターン2の方は、広がっているのですか。

(古谷) パターン2の時は窓辺の棚を利用して、児童コーナーの児童書の数確保しました。

(委員) 棚を区切って頂き、一つ続いた棚の本を探すのは、非常に探しにくいというこ

ともありますので、やはり途中で切って頂いて、見えるし、風も通るし、という形の方が子どもたちは出入りしやすいのかなと思います。なぜこんな事にこだわるかという、これでほぼ決定という風に受け止めてしまっているのですけれども…。

(古 谷) 建築の部分に関しては、ほぼ決定ですね。家具はまだ良いのですが。

(委 員) そうでしたら、私、建設部会の方に出まして、要望をまとめれば良いのですかね？

(古 谷) そうですね。まとめて頂いた方が私はやりやすいですね。印象として子どもコーナーは全部部屋を閉めて、全部間仕切りがあるイメージからスタートしているのです。それでそうではなくて、もう少し開いて、全体の中にあり、子どもが居ない時は大人も使えた方が良いのではないかというような議論も段々されてきて、これは全然違う例なのですが、間仕切りで仕切るのではなく、家具とか、本棚とかそういうもので柔らかく仕切って子どもさんのコーナーをつくるのはどうですか？という提案が、ここに来ています。あとは、程度の問題ですから、本は何冊収まるようにしなければいけない、届く範囲はどの位までが理想かというのは皆さんで考えて頂ければと思います。実は「靴脱ぐ範囲は」というのは建築工事で、家具ではないのですが、その程度の変更はいくらでもできます。

(委 員) テーブルの数とか。置き方に関してもこれから、まだまだ検討できますか？

(古 谷) そうですね。今まで何ヶ月か掛けて何通りもの家具配置をして、本の冊数とテーブルの座席数も、それなりに考えた成果が今のところに集約していますから、これをテーブル席を減らしてまで、本棚の数を増やすべきなのかどうかということは、いくらでも議論して頂いて良いのですが、今の所までに来るまでもそれなりの経緯があるということで、よく皆さんでお話し頂ければと思います。

(委 員) ありがとうございます。すみません、時間がないのに。

(古 谷) では、時間がなくなったので急ぎ足で進めると、実は今回、この小布施の図書館に関する要望を頂いて、お答えするという形で進めてきました。

でも、その中で時々不安になるのが、私が今まで建築家としてどのようなデザインで、どんなようなものを作ったのかということ、やはりどこかで、頭の隅にイメージして頂きながら話をする方が分かりやすいと考え、どこかで、もっと早い段階で、まとめてお話しすれば良かったのですが、今までなかなかその機会がなかったので、ちょっと今日、時間を頂いて、今までのものを振り返って、私どもの作ってきた建物をご紹介していきたいと思います。

(古谷さんの設計について スライドと説明— 省略 )

(委員長) 古谷先生ありがとうございました。当初、ここでプレゼンされた時から、今の

お話しはされていたのですけれども、ようやく実施設計の段階に入ったところで私たちの関心がコストや運営の方にいきました。今回、運営が一番大事で、同時に枝も大事にして充実させて町づくりを進めるという提案は、とっても有効かと思えます。ありがとうございます。

本当はこの後、20分くらいかけて議論をし、発表をしたかったのですが、私どもの運営も悪く時間になってしまいました。今日はいろんな所でお祭りも多く、役員のため途中で抜け出している人や、そろそろ帰らないとという人が沢山いますので、ここで切り上げたいと思います。

今、先生にご提案頂いたものは全て、次回以降の運営のワークショップなどに、素材、話題として生かしていきたいと思えますので、ご了解下さい。

次回の全体会については、改めて幹事会で決め5月の出来るだけ早い時期に開催したいと思えます。また、ご連絡しますのでよろしくお願ひします。ありがとうございました。

## 5. 閉 会